

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL (088) 833-4394 FAX (088) 833-7373 <http://www.tosaobog.com>



2018ホームカミングデーを企画運営した「8の会」のみなさん(懇親会にて)



「8の会」実行委員長
森光 康 (48 回生)

「8」に「土佐」の
未来を重ねて

今夏は西日本豪雨や北海道胆振東部地震など災害が続きました。同窓生の皆様やご家族のご無事を心より願っております。

2018年8月18日、担当8の会、「8」が印象的なホームカミングデー(以下..HCD)でした。まず過去例と「創立100周年まで2年」・「平成最後」のキーワードを携え、2月の実行委員会に臨みました。48回から88回迄の実行委員と同窓会役員が集結、ぶっつけ本番でしたが、不安はすぐに一掃され多くの企画が出揃いました。40歳の年齢差の中、それぞれが世代間ギャップを超えた興味深いテーマをあげ、講師候補も多岐に亘り、選別に苦労した程です。結果今年の骨格は初回で大半が固まりました。改めて土佐の同窓生の豊富な人材を再認識し、世代が離れていても自由闊達な意見交流が出来る校風に感動した次第です。以降開催当日迄、講師やイベントをお引受頂いた方々、当日スタッフ、全参加者の皆様の方で実行委員会の描いたHCDを正に実現頂きました。

HCD終了後、諸先輩、同窓の皆様より「良かった」「多彩だった」等有難い労いの言葉を頂く中、「8は末広がり」という言葉をよく耳にしました。「8の意味」の代表格「8は末広がり」を裾野の広がり、「8は無量大」を益々の発展に重ね、土佐高校同窓会の未来の可能性に思いを致すと共に、平成後も創立100年後も永くHCDの成功を確信致します。

最後に「冠する土佐を誇りに思えるイベント」に関わることが出来た事に感謝すると共に、ご協力頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

2018 ホーム カミング デー 日時/平成30年8月18日(土)12:00~

歌とピアノでいざなう クラシックの世界

上久保 沙耶 氏 (89回生)

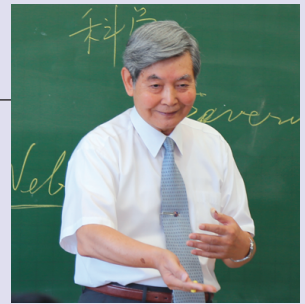
東京藝大の魅力にまるっとふわっと包まれて、深く透きとおった伸びのある歌声に魅了され、窓の向こうにイタリアのオレンジ屋根の情景が広がりました。チャオ！



特別授業

歴史雑感 西峯 隆博 先生

あの頃を思い出して、自然と背筋が伸びる西峯先生の授業。ダンディさは相変わらず、重厚を増した佇まい、歴史の授業のむこうに先生と私たちの時を重ねて…



どうしてこれが放送禁止？

横田 準也 氏 (68回生)

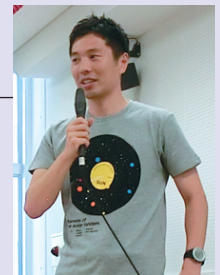
知られざる大人の事情がひしめくCM業界の表層の読み、深層の読み、という二段階で読み解く面白さ（あれ？どこかで聞いたような…）を体感しました。



激動！ 新宇宙ビジネス！

小松 聖児 氏 (78回生)

宇宙ビジネスは日進月歩！この子たちの新婚旅行は、まさしく『Honey Moon (🌙)』。ロマンチックですねえ〜❤️



土佐校体操

川崎 仁哉 先生 (74回生)

今年は川崎仁哉先生（74回生）と88回生が音頭を！身体を反るところでは、お決まりの「ウオー」が会場内に響きました(笑)これを聞くと運動会開会式での全校体操が蘇ります。



88回生と共に

Uターン相談会





来年のホームカミングデー 2019年8月17日(土)開催予定

2018年度 「同窓会運営協力金」のお願い

校恩感謝

美馬 勇作 (65 回生)



美馬勇作 責任編集
『女優 山田五十鈴』
(ごふく美馬 発行)
定価 8,000 円+税
ごふく美馬、金高堂書店にて販売中
配送ご希望の方は
mima.jp より詳細をご覧ください。

この度、私が土佐校在学中から敬愛し、ご厚誼をいただいた大女優、山田五十鈴先生の全舞台をまとめた写真集『女優 山田五十鈴』を先生の七回忌追悼として自費出版させていただきました。

出会い

山田先生との出会いはまだ窪川小學校に通っている10歳のころ、テレビ時代劇の『必殺シリーズ』がきっかけでしたが、土佐中進学を機に親元を離れ市内に下宿した私は、遙か遠い東京の舞台へと夢をふくらませながら、先生の出演した映画や舞台の原作を読むなどして無聊を託っておりました。やがて中三の時、便箋13枚に及ぶファンレターを送ったところ、マネージャーさんからお返事があり「もし東京へ来られる事があれば切符をお取りしますのでご連絡



高一で初対面を果たした楽屋にて
昭和61年5月 東京宝塚劇場

下さい」とあったから堪りません。山田先生は当時すでに69歳。いつもでお元気で主役を張られるか分からず、「大人になってからじゃ遅い。いま観ちゃかんと!」と思い詰めた高一の春、東京行きを願う出ると父は黙って小遣いを渡してくれました。

そこからの私の青春は山田五十鈴先生をはじめ杉村春子先生、中村歌右衛門丈という三人の名優のもとへ通い詰める日々で、休み時間には声色を使って舞台の名場面を演じてみせ、放課後には同級生をつかまえて山田先生の当たり役「五十鈴十種」の演目を誦読させるという、進学校の生徒にはあるまじき放蕩ぶりです。成績は下降の一途を辿りましたが、本校の美風である「異端の個性を排除しない寛容さ」のお陰で、楽しい学校生活を送る事ができました。

卒業時のサイン帳の「土佐へ入って良かったこと」という設問に「美馬と出会って五十鈴十種を覚えたこと」と書いてくれたT君は私とは正反対の優等生で、見事自治医大に現役で合格、医師の道へ進みました。また女子のIさんは早稲田へ進学後に初めて本物の杉村春子先生の舞台

を観て「美馬にそっくり!」と観劇中ずつと笑いを堪えるのに必死だったそうです。更には、テストの表面が赤点なのにもかかわらず、裏面に描いた山田先生の似顔絵に三重丸を下さった、粹な先生もおられました。先年、山田先生が亡くなった時には、日頃ご無沙汰している多くの同級生が「真っ先に美馬のこと思い出した」「大丈夫かえ?」と連絡をくれました。全国中学校の中で私の同級生の山田五十鈴偏差値?は日本一だと確信しております。

呉服の世界へ

天賦の才をあらぬ方向へ発揮し過ぎたため、高校を一年余分にかかって卒業し、二年間は東京で芝居の世界にどっぷり浸かりましたが、自分で六代目となる旅館業を継ぐために帰高。窪川へ腰を落ちつけてはみたものの、昨日までの華やかな世界に引き比べ、退屈な田舎暮らしに悶々としていた矢先、高知の名店・三條さんで呉服の世界へのご縁をいただきました。現在まで続く天職にめぐり合えたのも、小学生の時に浮世絵そのまゝの艶麗な着物姿で私の心を射抜いた山田先生のお陰と申すほかはありません。

平成9年に独立、ごふく美馬を創業してからは山田先生にもご最厚を

いただき、平成12年に女優初の文化勲章を受章された時には、両陛下からお茶会に招かれ宮中へ参内された折のお着物と、翌年の2月5日、先生84歳の誕生日に帝国ホテルで開かれた祝賀会でのお召し物一式をお見立てさせていただくという榮譽にあずかりました。

北村文典先輩の後押し

その翌年、先生は体調を崩され、長い療養生活ののち、平成24年7月9日にご逝去されました。私は自分の青春に別れを告げるため、東京で行われたご葬儀に駆けつけましたが、その通夜の席で、舞台写真家のIさんが長年撮り溜めた山田先生の写真をご提供くださり私が追悼本を出版する、という企画が飛び出しました。「言うは易し、行は難し」の格言通り、構想だけで一年以上進まなかった計画でしたが、ある事をキッカケに私の心に火がつき、平成25年の暮れ、思い切ってさる方に手紙をしたためました。「天下の山田五十鈴先生に一冊の舞台写真集も無いのはあまりにも悲しい。私にやらせて戴けないでしょうか?」。それこそ中三で山田先生にファンレターを書いて以来の、長い、熱のこもった手紙だったと思います。

その方は土佐高から関西学院大学



「文化勲章受章をお祝いする会」にて
平成13年2月5日 帝国ホテル

をご卒業後、東宝(株)に入社、演劇部で長年山田先生の舞台に携わって来られた演出家の北村文典先輩(39回生)でした。北村先輩は奇しくも、この6月に他界した私の父と同じ昭和21年のお生まれで、山田先生のご臨終の際にも一番に駆けつけられ、その後のマスコミ対応やご葬儀を取り仕切られるなど、東宝において「山田先生のことは文典さんに」と言われる方ですので、出版の決意をお伝えし、是非のご判断を仰ぎました。明けて正月、北村先輩からお電話があり「山田さんも喜ぶと思う。僕に出来ることは協力するから」と

背中を押して下さいました。

まずは共演者、スタッフへのインタビューから始めましたが、無名のファンから芸能事務所に企画書を送っても相手にされませんので、お許しを得て「高校の先輩である北村文典先生もこの企画に賛同して下さい」という旨、書き添えたところ、身分照会の電話が随分かかって来たので、その度に「彼はずっと山田さんのところへ通っていた後輩です」とお墨付きを与えて下さり、お陰で素人出版も快調な滑り出しが出来ました。

インタビューを七割がた終えた

頃、この出版にとって最大の危機が訪れました。唯一の写真提供者であったIさんがご病氣のため亡くなってしまったのです。私は呆然とし、目の前が真っ暗になりました。この急場を救って下さったのも北村先輩でした。東宝はじめ関係団体に掛け合って下さり、膨大な写真をほぼ実費のみで提供してもらえ様に手配して下さいました。それから「東宝さんが協力しているのなら」と全国の各劇場からも写真を提供してもらえる事になり、戦前の初舞台から平成最後の舞台まで、山田先生の全時代を網羅する絢爛な写真絵巻が出来上がりました。特別インタビュー『五十鈴を語る五十人』も、「大女優の知られざる素顔に触れて感動した」とご好評を頂き、一般書店には並ばぬ自費出版書籍ながらSNSなどを通じて全国からご注文をいただいております。

北村先輩が手を差し伸べて下さらなかつたら、この本は陽の目を見る事が出来ませんでした。心血を注いだライフワークを母校の先輩のご助力で成し得、それを同窓生の皆様にご報告させていただけます事は、落第生であった私にとってまさに僥倖であり、あらためて土佐の「校恩」に感謝する次第でございます。



学校近況報告

変化の中で絆を頼りに

学校長 小村 彰 (49回生)

六月半ばの大阪北部地震に端を発し、西日本豪雨、逆走台風一二号、さらに二〇、二一号と相次いで台風が四国・近畿を直撃、大きな被害をもたらしました。その被害の情報が伝えられている最中に、今度は北海道地震。自然の猛威を思い知らされ、日常の当たり前のことが当たり前にできることのありがたさをつくづく感じた夏でした。

☆海外研修・交流

新たなページへ

八月一六日から二七日まで、中三・高二の生徒一九名がニュージーランド語学研修を行いました。学校が主催しての本格的な海外研修は初めてで、いろいろと心配な面もありましたが、無事研修を済ませ、帰りついた生徒たちの顔には、充実感と達成感に新たな体験の重みを加えて、出発前より一段と成長した輝きを感じました。

☆この夏も部活は大活躍

そんなたいへんな夏にも、生徒たちは生き生きと活動してくれました。東海地方で行われたインターハイには団体でハンドボール女子と登山、個人で陸上競技、バドミントン男子、テニス女子、柔道女子が出場しました。また信州で行われた全国総文祭には、美術・吹奏楽・音楽(弦楽・合唱)・放送・文芸・かるたの各部が参加しました。この他にも、高校生は弓道部女子、軽音楽部などが全国大会出場権を得ました。さらに、中学生も大活躍。県優勝のサッカー部は四国大会でも二位に入り、全国中学総体に出場しました。また、四国大会で優勝した男子弓道部は勢

いに乗って、全国大会でも三位に入賞する快挙を成し遂げました。

この他にも、例年同様、東京でガイナー生徒との交流も行われました。カナダに一年間留学した高校三年生は、二回り成長して帰ってきました。教員も現在二名が一年間の海外研修中です。大学受験のためだけでなく、真の意味での国際交流に向けて、新たなページが書き加えられつつあります。

☆同窓生の絆のありがたさを 痛感しています

今年も、同窓会の各支部会が開催

されました。西日本豪雨で交通手段が遮断された香川支部会、北海道支部と重なった徳島支部会には出席できず残念でしたが、出席した支部会及び本部ホームカミングデーでは、同窓生の皆さまの母校への熱い思いをひしひしと感じました。とくに今年には本校出身以外の教員も何人か出席させていただき、いずれも同窓生の盛り上がりにより圧倒され、改めて本校の卒業生の絆の強さを実感したようです。

二年後の創立百周年に向けた準備もすこしずつ進みつつあります。長い歴史の中で築かれてきた本校に関わる人たちの絆は、本校にとって何よりの財産、宝であると思います。ますます強くなっています。教育を



今も変わらぬ「鯉の滝登り(高2)」
(平成最後の運動会にて)

(九月二十日記)

国際交流基金 活用研修

教員氏名	期間	国	地域	研修施設・目的
仁尾 明彦	2017/7/30~8/14	イギリス	ロンドン	St. George International London
高橋 篤美	2018/3/17~4/2	ニュージーランド	オークランド	Kaplan International English
北村美智雄	2017/8/20~24	シンガポール	シンガポール	海外研修調査、EFシンガポール校
松田 英典	2018/1~2019/1	イギリス	コベントリー	Coventry University
アンドリュウ・ウォーレス	2018/7~2019/6	オーストラリア	パース	Edith Cowan University
渡邊かほる	2017/7/31~8/7	ニュージーランド	オークランド	NZLC 短期語学研修調査(現地調査費のみ支給)
岡松 宏明 音田 康平	2018/3/17~22	ニュージーランド	オークランド	NZLC 短期語学研修下見
生徒氏名	期間	国	地域	研修施設・目的
宮本 明	2017/9~2018/7	カナダ	ラングレー	Brookwood Secangary
ニュージーランド研修団(生徒19,教員4)	2018/8/16~28	ニュージーランド	オークランド	NZLC 語学研修

巡る状況は大きく変化しつつあります。本校もそうした動きと無縁ではいられませんが、建学以来受け継がれている「土佐らしさ」をしつかりと受け継ぎ発展させていかなければならないと感じています。そのために、これまで以上に卒業生の皆さんとの絆

を大切にしていきたいと考えています。今後ともご協力をお願いいたします。

● 合格の状況 ●

国立大学	現	過	計	進学
北海道大		3	3	3
旭川医科大		1	1	1
岩手大		1	1	
東北大		1	1	1
茨城大		3	3	3
筑波大	3		3	3
千葉大	4		4	3
東京大	2		2	2
東京医科歯科大	1		1	1
東京外国語大	1		1	1
東京学芸大	1		1	1
東京農工大		1	1	1
東京工業大		1	1	1
お茶の水女子大	2	1	3	2
電気通信大	2	1	3	3
一橋大		1	1	1
東京海洋大	1	1	2	2
横浜国立大	1	4	5	4
新潟大		1	1	1
山梨大	1		1	1
信州大	1	1	2	2
静岡大	2		2	1
京都大	5	3	8	8
大阪大	11	5	16	16
大阪教育大	1	1	2	2
神戸大	5	4	9	9
奈良女子大		1	1	1
鳥取大		1	1	1
島根大	1		1	1
岡山大	6	6	12	10
広島大	5		5	5
山口大	3	1	4	3
徳島大	7	3	10	7
香川大	4	3	7	6
愛媛大	1	5	6	5
高知大	26	25	51	45
九州大	3	2	5	4
九州工業大	1		1	1
佐賀大	1		1	
熊本大	1		1	1
琉球大		1	1	1
計	103	82	185	164
昨 年	88	62	150	139

私立大学	現	過	計	進学
酪農学園大	1	2	3	1
自治医科大	2	1	3	2
獨協医科大		2	2	
明海大		1	1	
文教大	1		1	1
千葉工業大	3		3	1
東京歯科大		2	2	1
青山学院大	3	2	5	2
桜美林大	1		1	1
学習院大	2	2	4	2
北里大	1	3	4	1
慶應義塾大	11	9	20	9

私立大学	現	過	計	進学
駒澤大	3	4	7	2
芝浦工業大	1	8	9	
順天堂大	1		1	
上智大	1	1	2	
昭和大	1		1	1
成城大	1		1	
専修大		1	1	1
大東文化大	1		1	1
中央大	4	14	18	1
帝京大		1	1	
東海大	3	7	10	
東京経済大		1	1	1
東京慈恵会医科大	1		1	
東京女子大		1	1	1
東京農業大		1	1	
東京理科大	7	14	21	5
東洋大	1	2	3	
日本大	5	11	16	4
日本歯科大		1	1	1
日本獣医生命科学大		1	1	1
法政大	6	11	17	3
武蔵大	1		1	1
東京都市大	1		1	
武蔵野大		1	1	
明治大	12	16	28	10
明治学院大	1		1	1
立教大	5		5	1
立正大	1		1	
早稲田大	10	11	21	7
麻布大		1	1	
神奈川大		2	2	
フェリス学院大	1	1	1	1
横浜薬科大		1	1	
愛知医科大		1	1	1
名城大	2		2	
豊田工業大	1		1	
成安造形大		1	1	1
京都外国語大		1	1	1
京都産業大	2		2	
京都女子大	5	3	8	2
京都薬科大	1	2	3	
同志社大	22	24	46	11
同志社女子大	2		2	1
立命館大	39	21	60	5
龍谷大	7	4	11	2
京都造形芸術大	1		1	
京都文教大	1		1	1
大阪医科大	1		1	
大阪工業大	4		4	
大阪歯科大		1	1	1
大阪薬科大	3	4	7	3
追手門学院大		2	2	1
関西大	39	10	49	6
関西医科大		1	1	
関西外国語大	1	1	2	
近畿大	26	13	39	4
摂南大		1	1	

私立大学	現	過	計	進学
大阪人間科学大		2	2	
大阪総合保育大	1		1	
関西学院大	26	7	33	6
神戸学院大	5	6	11	1
神戸女学院大	1		1	
神戸女子大	1		1	
神戸薬科大	5	2	7	1
兵庫医科大		1	1	
武庫川女子大	3	2	5	
兵庫医療大	1		1	
奈良大		1	1	
畿央大	2	2	4	
岡山理科大	4	4	8	3
広島学院大	1		1	1
広島国際大	1		1	1
日本赤十字広島看護大	1		1	
四国大	1		1	
徳島文理大	4	1	5	
松山大	5	3	8	2
久留米大		1	1	1
西南学院大	1		1	
福岡歯科大		1	1	1
九州国際大	1		1	1
日本文理大		1	1	
計	313	260	573	122
昨 年	201	196	397	99

公立大学	現	過	計	進学
釧路公立大		1	1	
高崎経済大	1		1	1
首都大学東京	2	1	3	3
横浜市立大		1	1	1
都留文科大	1		1	1
岐阜薬科大		2	2	
名古屋市立大		1	1	
京都府立医科大	1	1	2	2
大阪市立大	1		1	1
大阪府立大	2	1	3	2
兵庫県立大		1	1	1
岡山県立大	2		2	1
県立広島大	1		1	
下関市立大	1		1	
山口東京理科大	1		1	1
高知県立大	1		1	1
高知工科大	1	1	2	2
北九州市立大	1	1	2	2
計	16	11	27	19
昨 年	15	17	32	25

準大学・その他	現	過	計	進学
短大		1	1	
専門学校	2	1	3	1
防衛大学校		2	2	1
防衛医科大学校		2	2	2

平成30年度入試総括

進路部長 藤岡 優太 (58回生)



◆はじめに◆
私事になりますが、今年度に入り、教員免許更新の講習を5つの大学で受講してきました。講習内容や形態は様々。受講人数が2名の講習もあれば200名のものもありました。授業も講義形式からワークショップ形式という。2名の講習は、さすがに緊張しましたが、どの授業も個性溢れる授業で大変勉強になりました。

◆入試結果◆
さて、今年度の大学入試結果です。ここでは、この数年の推移とともに話を進めていきます。
◆現役国公立大合格数◆
今年度の現役国公立大合格者は119名(過去3カ年118→118→103)。ここ数年は120名近い高水準で推移しています。
◆現役私立大合格数◆
現役私立大合格数については307→263→201と減少が続いていましたが、今年は313名と以前の水準にもどりました。一人あたりの受験数は例年通り。定員厳格化の合格者絞り込みによる私立大の大幅な難化の中、非常に健闘したと思います。
◆国公立大医学部医学科◆
国公立大医学部医学科の合格数については、この数年31→38→36と推移してきましたが、今年度も33名(現役15名)と高い水準で推移しています。特に岡山大については、昨年に続き合格者4名(現役2名。昨年は現役1名)と好成績が続いており嬉しい限りです。
◆難関国公立大◆
難関10大学(旧7帝大・神戸・一橋・東工)については、この数年42→41→45と推移してきましたが、今年度も46名と立派な成績を修めることができました。特に大阪大については、昨年に続き16名(現役11名。昨年は現役13名)と好成績が続いています。
◆東大・京大◆
京大は8名合格(現役5名)。ここ数年、現役合格数は1→3と苦戦が続いていましたが健闘してくれました。ただ、昨年に続き京大については合格者が2名(現役2名)と厳しい結果が続いています。今年度については東京大の志望者が少なかったというものの、力のある生徒が多かっただけに合格者が2名というのは非常に残念な思いです。改めて東京大の難しさを実感しています。

◆最後に◆
大きく変わる大学入試の学年もいよいよ高1となり、新テストが近づいてきています。試行調査も行われる共通テストについては、不安な部分はあるものの本番に向けての準備が確実に進んでいるという感じがしますが、共通テストの枠組みにおいて活用される英語民間試験については具体的な運営がいまだ見えてきません。大規模人数での一斉実施の試験を試行調査も行わずにミスなくできるのか。非常に心配です。



ニュージーランド研修報告

教頭 岡松 宏明 (51年生)

【企画と準備】

今年度、本校も海外研修の扉を開くことができました。多額のご寄付を頂いた新世紀募金をもとに海外交流基金を設立、教員・生徒に対する奨学制度を整備しました。教員の海外研修を積極的に支援するとともに、生徒にも海外で学ぶ機会を与え、広い視野を身につけることが目的です。現在2教員が1年間の予定で海

外大に留学中です。また生徒の短期語学研修を企画し、中3から高2までの19名が参加しました。その概要を参加生徒の日記・感想を含めご報告します。

【出発／ロトルアへ】

8月16日午後2時30分、高知空港で出発式、翌日の12:30（現地時間）にオークランドに到着、現地スタッフと合流しバスで北島一の景勝地ロトルアに向かいました。市街を抜ければ広大な牧草地が展開する牧歌的な光景が続きます。午後6時半にロトルア到着、食事を済ませて湖畔のホテルに到着したのは9時前、移動の長い一日でした。

「オークランドについてまず寒さに驚いた。…入国審査の時にいろいろと質問されて動揺した、ホストファミリーとは動揺せずにちゃんと聞き返すようにしようと思った。…マオリシヨウの中で「ハカ」を初めて生で見たが迫力がすごかった。パフォーマーの方々の声量と表現力に驚いた」
(高2女子)



【NZLCでの語学研修】

翌朝、6月は冬なのでとても冷え込みますが空気は澄みわたり、夜明け前後のロトルア湖の美しさに息をのみます。午前はバスでロトルアの景勝地を巡り、夕刻にNZLCに到着、受講のためのガイダンスを終えるとホストファミリーの迎えを受けて各家庭へと別れていきました。

オークランドは移住地としての人気が高く、欧米以外にも、アジア・中南米から多くの人が移り住んでいます。そういう理由もあり語学学校



が充実しています。私たちが学んだNZLC (New Zealand Language Centres) はオセアニア地域では大きな規模の学校です。中高校生向けのクラスを持ちレベル別に10数名のクラスに分かれ、自分の実力にあったクラスに入ります。午前は実践的な話法や文法の学習、午後はそれぞれのクラスのテーマによる参加型のレッスンでした。金曜日の午後は全クラスが集まり、それぞれのグルー



「ペアワークのときに他国の学生とペアになれば、今までほとんど使わなかった英英辞典が欠かせませんでした。はじめはこの状況に戸惑いましたが、慣れてくると新鮮に感じました。」
(高2女)

【研修全体を振り返って】
ホームステイで8泊したファミリーの家族構成、母国は様々でした。NZLCへは各家庭から30〜50分かけて毎日バス登校です。自立性を育むこともこの研修の目的でした。語学研修以外にも現地の高校や大学の訪問を加え、これらの生活や研修を

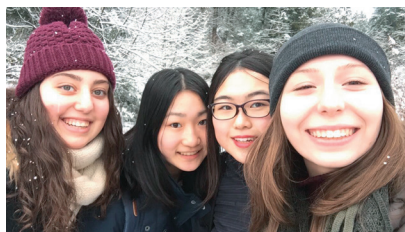
通して生徒達は多くのことを吸収したようです。



「英語を生きた言語としてとらえるとき、何も考えずに例文を読んでいるだけではだめで、自分は今何を言いたいのか、何を聞きたいのか、どうすれば自分の能力でそれを表現できるかが大切だとわかった。」
(高1男)

「私はこのニュージーランド研修に参加し、今まで自分がいかに多くのステレオタイプを抱えて世界を見ていたかということに気づきました。ニュースで報道されていることは物事の一面に過ぎず、それだけで

カナダ留学レポート:「言葉で伝える」



雪がたくさん降った日に友達と集まって雪遊び(筆者:右から2番目)

宮本 明 (現高3)

私は2017年の9月から2018年の6月までの10ヶ月間、カナダに留学しました。カナダは移民の国で、田舎でも様々な人に出会うことができ、今では世界中に友達がいて多様な文化にも触れることができました。勉強、特に数学は日本より比較的簡単とよく言われますが、日本の高校の最終学年でも学習

しない内容を学習することに驚きました。

この留学を通して私が学んだことは、「言葉で伝えること」です。カナダには日本のように「言わないでも察する」文化がないので、NOと断る勇気や、感謝など自分の気持ちをしっかり伝えることでしっかりと人間関係築くことができるということを学びました。

留学する前は、将来日本を拠点に世界中を飛び回る仕事をしたいと思っていました。留学から帰ってきて、まだ明確に何がしたいかは決まっていますが、海外を拠点にビジネスの場で活躍したいと思っています。留学から学んだことを生かして、日々精進していきます。



いつもの通学風景。カナダの空は日本のものより高くとても気持ちの良いものでした。

そこに住む人たちへのイメージを抱くのは身勝手なことだと思います。実際にあつてはじめてわかることはたくさんあります。勉強して知識を得ることと同じくらい価値があることがこの研修に詰め込まれていると

生徒たちの生き生きとした様子と積極的な行動に、この研修の成果が確かなものと感じました。

感じました。」

(高2女子)

教員留学レポート

留学先…コベントリー大学（イギリス）

留学期間…約1年（2018・1・15～19…オリエンテーション、2018・1・22～2019・1・19…授業期間）

四十にして学に志す

英語科 松田 英典（71回生）



現在、私は英語教育と応用言語学修士課程（English Language Teaching and Applied Linguistics MA）をイギリスのコベントリー大学（Coventry University）大学院で学んでいます。このコースでは、必修科目である「言語学習と指導に関する理論」、「談話分析」、「高等教育における教授法」、「文法と音韻論」、「教材作成」、「コンピューターを用いた言語学習理論と実践」、「国際的職能開発」、「修士論文」を修了することと、5つの選択科目の中から2科目修了することが求められます。私は選択科目の中から「社会言語学」と「コーパス分析と教育学」を選択しました。

この修士課程には30人ほどが在籍しており、現在約10か国からの現任教員や教員志望者とともに英語教育について学ぶ日々が続いています。私のような熟年生徒も10名程度在籍しており、様々な価値観を共有することが出来ます。1年の修士課程は、想像していたよりもはるかに密度が高く、膨大な読書量と課題提出が求められますが、同じ学問を志す仲間とともに、当たり前のようには英語を話しながら、学問に没頭することが出来ています。

思えば数年前、自分がまさかこうして留学しているとは思っていませんでした。中学生のときから留学をしたいという希望はあったものの、中高生の頃は「今の英語力で留学し

ても…」と気後れしたり、大学時代は「社会人になって資金を貯めてから」などと考えたりして留学を先延ばしにし、気が付けば適齢期は過ぎ、ほぼ諦めていたような気がします。そんなときに文部科学省による英語教育改革が始まり、英語教員はICT機器の活用など、大学時代に学ぶ機会がなかったスキルを求められるようになりました。時代の変化に対応するために研修会に参加したり、大学入試に活用が検討されている語学検定を受験したりして、新たな知識を得ようとしていくなかで、「もう一度大学で英語教育を学びなおすことが出来れば」などと叶わない夢を頭の中で描いたものでした。ところが、本校で海外研修を行うプロジェクトが始まり、語学試験も受験済みであったことなどの偶然も重なり、20年来の夢は現実のものとなりました。

イギリスという英語教員としてはこの上なく恵まれた環境下で私が勉強させていただけの背景には、様々な偶然の積み重ねがあります。先が見えなくても努力を続けていればその努力が新たな道を切り開くことがあるのを再認識しました。

最後になりましたが、今回の留学に際してご支援くださいました皆様、そして私の不在中多大なるご迷惑をおかけしている職場の皆様、に心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。



発表中の一コマ



同じ修士課程の仲間と教室にて（国籍は6か国にわかれます）



コベントリー大聖堂から見たコベントリー大学とハーバート美術館



コベントリー大聖堂（十字架を中心に右が新聖堂、左が旧聖堂。旧聖堂には大戦の爪痕が残っている）



The Hub（学生食堂や休憩施設などがあります）



石畳の街並み



私が住む Westminister Road（9月8日に引っ越したばかりです）

弓道部 中学生全国3位！

弓道部顧問 日比 康貴

始めにOBの方や部員、多くの方々にご支援を頂き感謝申し上げます。

今年弓道部中学生は県総体を制し、8月5日に愛媛県で開催された四国大会に出場、また、8月18日、19日に東京都で開催された全国大会には3年連続出場となりました。

四国大会は昨年度、現中3猪俣雄生を含めた男子チームが優勝しており連覇をかけた大会でした。メンバー持ち前の強い精神力と集中力によって作られる和により優勝、連覇達成となりました。

全国大会は、過去は後一步で予選落ち。中3岡田宗大、猪俣雄生は昨年この舞台の経験者。その2人に稲田凜、鈴木健太を合わせた3年生4人で挑みました。弓道は「あの1本で…」ということが多く、勝っても1本、負けても1本。昨年のもも過ぎり「あの1本。いつかの、その時の1本が(的に)入るように」と臨みました。予選2位で決勝進出。今大会個人の部にも出場した猪俣の皆中(4射4中)や各自安定した的中で各自の課題を感じさせない予選でした。

決勝1回戦、抜群の安定感を見せる岡田の支えもあって勝利。2回戦は稲田も好調を取り戻し、各自4射3中と落ち着いた射でした。しかし準決勝では少しの心の隙からか上手

く和がならず敗退し3位。射場から出るや涙ながらに「突然上手いかなくなりどうしたらいいか分からなくなりました」という一方、晴れやかな明るい表情で「最後の最後まで射ができました」と言う者も。手が届きそうな頂点を前に退き、悔しい思いをしたことでしょう。しかし、これほど大きな舞台で的中という欲望に負けず自己の射を表現できたのは実に素晴らしいことでした。晴れやかな表情もこの自信からでしょう。私もメンバーの集中力の深さには感服。今後も各自自分に克つべく鍛錬を積んでくれると確信しています。今後も応援宜しくお願いします。



小松梨那子さん(現高3)、全国英語スピーチコンテスト優勝！

英語研究部顧問 トーマス・リチャードソン

On February 11th 2018, I had the great pleasure of witnessing Rinako Komatsu winning the All Japan High School Speech Contest. For the second time in the contest's short history, a Tosa student held the title of the best English high school speaker in Japan.

For her winning speech, Rinako chose a theme which managed to be personal, and also nationally significant in its outlook: The right to vote. Now that the legal age in Japan has been lowered to 18, surely it is time for young people to vote and to make their voices heard.

There have been two winners of this competition from Tosa High School. Ai Inoue won the very first competition in 2007. While training for the contest, Rinako and Ai shared two significant qualities: a desire to keep improving and a willingness to work hard at something, even when there are difficulties. Rinako practiced her English skills all through junior high school. The road to victory was neither short, nor simple, but having built sufficient foundations over a number of years, she finally got there!

It is my hope that Rinako, Ai and other Tosa students who have practiced the art of public speaking during their school lives, will be forces for good in Japan and beyond. They have learnt the skills of communication in another language, and they have gained the ability to motivate and inspire. In the future, I am certain they will be making their voices heard!

〔第1回大会優勝は井上愛(85回生)さん〕



高知新聞 2018.2.27 掲載

頑張る現役生のクラブ活動状況は、土佐中・高等学校HP クラブ・生徒会↓
特活通信「右文尚武の軌跡(橋目博之特活部長・51回生)」で詳しく掲載しています。

北海道支部

野坂芳夫(67回生)

初めまして、67回生の野坂と申します。昨年、支部総会に参加させていただいた際、話の成り行きで、今回の支部だよりを担当することになりました。札幌在住12年になります。

10数年も北海道にいますとすっかり「道産子」の仲間入りをしていまして、北海道弁を使いこなし(土佐弁も忘れていません)、ファイターズを応援し、焼肉といえどジンギスカンといった感じになっていきます。北海道の魅力は、豊かな自然、豊富な食材を活かしたグルメ、ゴルフ場やスキー場、キャンプ場などのレジャー施設も手軽に行くことができます。最近、北海道でも酒米が取れるようになって、北海道の地酒も大変美味しくいただけます。

そんな北海道ですが、9月5日未明に本州で猛威を振るった台風21号が勢いそのまま北海道に接近し、大きな被害を与えました。その傷が癒えない9月6日未明に「北海道胆振東部地震」が発生し、大規模な土砂崩れにより多くの死傷者を出し、全道的な大停電も発生しました。今年も日本全体で多くの自然災害が発生し大きな被害をもたらしています。自然災害の恐ろしさ、日頃の備えの大切さを痛感しています。

話は変わりますが、北海道支部の活動についてお知らせします。例年通り昨春秋、11月4日(土)にロイトン札幌で支部総会を開催しました。来賓として、学校より小村校長、松村教頭、同窓会本部より森本様(元教頭)、北村副会長、関東支部より市川

幹事長、東海支部より前田支部長、広島支部より沖様(前支部長)にご出席いただき、北海道支部の9名と合わせて16名での開催となりました。土佐中高の近況や懐かしい話……とても楽しい時間でした。後輩たちの部活動や大学受験での活躍を聞いて、「文武両道」あらためて土佐の素晴らしさを実感し、元気をもらいました。なお、今年は9月15日に支部総会を開催しました。その様子は次回報告させて頂きます。

北海道は、これから短い秋を迎え本格的な冬の季節となります。冬はスキーの季節！パウダースノーの聖地として世界的に有名なニセコなど冬の北海道も魅力たっぷりですので、是非ともお越し下さい！



2017年度北海道支部総会にて

関東支部

副幹事長 結城 優(83回生)

同窓会の皆さま、こんにちは。本年度より関東支部同窓会の副幹事長を拝命しました、結城優です。

私が土佐校を卒業したのは2008年。卒業以降、東京に10年住んでいますが、土佐校の縦の繋がりの強さを感じ続けた10年でした。関東支部同窓会には大学入学当初より参加させていただき、気さくな先輩方とお酒を酌み交わしながら直接お話を伺う

ことができたのは、とても贅沢な環境でした。私は、現在、都内で弁護士として法律事務所に勤めています。法曹界を本格的に目指そうと思ったのも、法曹界でご活躍中の土佐校の先輩方から実務の話聞いたのがきっかけでした。土佐の後輩というだけで、事務所訪問の時間を作ってくださいたり、飲み连接到いてくださったり先輩方には頭が上がりません。

今でも、同窓会はもちろん、土佐校ゴルフコンペに参加させていただいたり、筆山のランチ会に参加させていただいたり、幅広い業界、年代の先輩方と日常的に交流する機会に恵まれていることには感謝の念に堪えません。

若輩者ではありますが、今後は少しずつ母校への恩返しできればと思っています。そんな第一歩として、毎年11月の修学旅行では、土佐校生の裁判傍聴の引率、お手伝いをしています。同窓会の中では若手の私も、在学生からみたら一回り年の離れた先輩です。後輩たちに良い刺激を与えられるよう、今後も続けていきたいと思っています。

さて、私事で恐縮ですが、3年勤めた法律事務所を今年一杯で退職し、来年1月以降、都内で法律事務所を開

設、独立予定で目下準備を進めております。来年は平成が終わり元号も変わるということで、平成元年生まれの私も30代

土佐校ゴルフコンペ (2018.6.18)
筆者：後列右から6番目

に突入します。チャレンジする年としては、これ以上なくキリの良い年です。新たなチャレンジをしつつ、今後同窓会活動に積極的に参加し、土佐校を盛り上げていきたいと思っています。

東海支部

事務局長 瀬沼憲司(64回生)

同窓生の皆様、こんにちは。東海支部では、本年も例年通り5月に総会を執り行いました。今回総会ではカシオで長年製品開発などをされてきた38回生の羽方将之さんに「新製品開発と高知」と題して講演いただきました。カシオ時代の誰かが知っている、私も使っていたデジカメの開発について、高知県出身の開発者のお話、大学からカシオに入社するときの秘話など、特に若手の同窓生にとって今後の参考にもなるお話でした。来年も5月に総会、そして講演を予定しておりますので、もしよければ是非ご参加ください。

さて、東海地方の今年のスポーツ界は今年もなかなか厳しい結果になっています。

プロ野球では中日ドラゴンズは5位。そして、Jリーグでは昨年J1リーグに1年で昇格した名古屋グランパス。今年の前半戦はダントツの最下位、ただ後半戦に入り7連勝しなんとかもしかしたら降格は免れるかもと期待できるまでになりました。それでも昨年同様見ていて楽しいサッカーを目指しがんばっております。正念場を迎え一進一退の厳しい戦いを続けていますが、最後までしっかりと応援していきたいと思っています。

サッカーといえば、今年は4年に1度のワールドカップが開催されました。ワールドカップは98年のフランス大会から、毎回現地に行くことにしており、今回もロシアに行つて参りました。今大会では日本代表の1試合目、コロンビア戦に3人の子供たちを連れて勝利を掴み取る代表選手たちの雄志を見せてあげることができました。フランス、日本、ドイツ、南アフリカ、ブラジルと毎回最低1試合は観戦してきましたが、実はワールドカップ本戦で勝利を見られたのは初めてでした。子供たちの強運さに感謝です。その後1度子供たちを連れて帰国し、再度ロシアに行き3試合目のポーランド戦、ラウンド16のベルギー戦を観戦しました。特にベルギー戦は試合中も決勝トナメントでついに日本代表が勝つてくれないかと大興奮でした。結果は惜しくも敗れましたが、素晴らしい戦いでした。ロシアは行ってみるまでは一体どんな国なんだろうと不安がありましたが、行ってみてびっくりするほど治安が良く、今までワールドカップで一番安全だと感じました。ドイツの時ですらナイフを突きつけられたりしたこともあり、行ってみないと分からないというのを実感しました。

そして、なんと！偶然というか奇跡というか、64回生の同期の溝淵輝明君に（同じ現地ツアーでした！）偶然現地で会い、お酒を酌み交わす



現地（ボルゴグラード）で偶然会った64回生の溝淵君（左）と

ことができる、何という土佐校の絆でしょう。二人でロシアにて、土佐校と高知の素晴らしいさを感じたりアピールしてきました。

関西支部

船木みあさ(65回生)

年に一度、『向陽』が郵便受けに入る。待ち望んでいる訳でもないが、旧くからの友人が今年も便りをくれたような嬉しさがある。内容は大体分かっていて急いで読む必要もなく、受け取ったその時々自分の気まぐれで、しばらく置いたままになることもある。しかし、如何なる扱いをされようとも毎年、同じ時期に送られてくるのがこの会報の憎いところで、来なければ、気になる。思うに、『向陽』は届くこと自体に意味がある。つまり、自分は土佐という学校に所属していたということを思い出させてくれる便（よすが）なのだ。来年も届くというちょっととした安心感を添えて。

土佐という学校の現在の活動や様子を卒業生に伝えるのが、この会報の主な目的なのだから、さらりと報告に目を通せば良いはずなのに、そうもいかない。朗報が届くと誇りに思い、我が手柄のようで晴れ晴れしい。時には、何とかならないものか気を揉むことが書かれていたこともあるにはあったが、かつての自分と現在の自分の間を行き来して、実にせわしない。

（詮方ない）

揺れ動く感性で可能性を模索した十代に、土佐という学校で空間と時間を共有した仲間が集まりである同窓会からの発信が届くのだから。

私は『向陽』に励まされることが多かった。母校がしっかりしていて有難い。これから励まされるに違いないが、いっか少しでも恩返しが出来ればと思う。

「THOKSN」

というホーム名がチャリと頭をよぎる。

先輩から後輩へ、この繋がりを大切にしよう、関西でも、卒業生が年に一度総会を持つ。次回は2019年2月23日（土）、大阪城が真正面に見えるKKRホテル大阪（JR森ノ宮駅より徒歩10分）で。皆さん是非、一緒におしゃべりしましょう！



関西支部総会にて 筆者：真ん中

広島支部

岩田 猛(49回生)

同窓生の皆様こんにちは、広島支部会員の岩田です。住まいは愛媛県松山市ですが、色々な縁で広島支部会員になりました。きっかけは、同級生でバドミントン部でも一緒だった広島支部役員の門田（河野）さんに、支部総会に49回生が何人か集まるので、広島に遊びに来ませんかとお誘いを受けたことでした。松山と広島は高速艇に乘れば1時間の距離で近いです。広島支部はいろいろな職種の方々ですが、土佐卒業生ということで和気あいあいとしてアットホームな雰囲気を感じました。また役員にはバドミントン部後輩の大谷さんもいました。そのためその後も誘われて広島支部総

会に顔を出していたところ、いつの間にか広島支部会員になっていた印象です（支部員になった事を喜んでいますが、念のため）。今回、広島支部便りの原稿を依頼されたのは、小村校長先生と同級生だったことが大きな要因のようです。小村校長先生とは土佐高バドミントン部でダブルスのペアを組んだ間柄になります（以下高校時代にもどつたつもり小村君と書かせて貰います）。小村君は中学校では野球をしておりバドミントンは高校からでしたが、持ち前の熱心さでメキメキ腕を上げて、中学校時代からやっていたメンバーの実力に追いつきました。高校2年の時に山形であったインターハイに出場することが出来て、団体戦の1回戦では愛知の高校に勝利したことは嬉しい記憶として残っています。その小村君が大学卒業後土佐の先生になり、実にびったりの職について思っていました。そして長年のご苦労の甲斐あって土佐の校長先生になられたことは、同級生として本当に嬉しく思っています。少子化時代を迎え、優秀な生徒確保や、立派な進学実績の維持など校長先生としては大変だと思いますが、持ち前の粘り強さで頑張ってくれるものと期待しております。

昔の思い出話が主になってきましたが、広島支部はみんな仲が良く、まとまった楽しい支部です。校歌と一緒に歌うと高校生時代が蘇るような気持ちになります。広島支部総



昨年11月の広島支部総会

会にあまり参加されてない方や、他支部の方々も是非お顔を見せてください。

香川支部

幹事長 上池 裕(50回生)

同窓会の皆様、こんにちは。香川支部幹事長の上池です。

今年の第23回香川支部総会は、7月7日の七夕の日に例年通りJR高松駅前の高松シンボルタワーで開催されました。西日本の大雨の影響により、開催を危ぶむ声も聞かれましたが、お酒好きの皆様の強い意見で決行となりました。そのためご来賓としては、残念ながら小村学校長をはじめ多くの方々が欠席となり、関東支部の浦田事務局次長と徳島支部の山本幹事長のお二人のみとなりました。

総会の中では、大先輩の三澤先輩(19回生)から土佐中学校時代の向陽寮の思い出話を御披露していただくと共に、平成29年度秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章された土田先輩(32回生)への花束贈呈もありました。総会後の懇親会では、雨の上だった瀬戸内海の島々と屋島の景色を眺めながら、年に一度の楽しいひと時を過ごすことができました。最後はいつものように、肩を組んでの校歌斉唱、大黒支部長による応援エールでお開きとなりました。

さて、最近香川県でも四国新幹線の話をよく聞くようになりました。香川県は四国新幹線の入り口である瀬戸大橋(既に新幹線対応となっている)があり、シンポジウム、講演会がたびたび開かれています。先日講演会で聞いた内容を簡単にご紹介

します。完成すれば、高知・新大阪間が約1時間30分、高知・高松間が36分で結ばれ、圧倒的な時間短縮効果が期待でき、四国の沿線人口の少ない地域でも既に新幹線が建設され、その恩恵を受け発展しているとのことでした。新幹線の工事は、JRではなく国が主体となって行うものであり、地域の熱意、盛り上がりが建設順位に大きく影響するそうです。相当先の話ではありますが、孫・子の世代のためにも、将来の道筋をつけておきたいものと感じています。

来年は3年に1回の「瀬戸内国際芸術祭」が開催される予定で、ぜひ「うどん県」「アート県」香川にお越し下さい。



香川支部総会 筆者：前列右

徳島支部

濱田 太(53回生)

平成30年9月16日は気温30度、土佐中・高等学校同窓会徳島支部第2回総会に出席するため、徳島ワシントンホテルに向かった。数分歩くだけで汗に浮くという酷暑の中やってきたのは、この4月徳島大学入学式の式次第に同級生の名前を見つけたことがきっかけである。

会場では、徳島支部会計監査で式次第にあった東端君(53O)に早速挨拶をする。県の企業局のトップとして活躍しており、数日前にテレビニュースでインタビューの応対は素晴らしかった。関東支部幹事長の市

川君(53O)もいて、彼とはSNSつながりで日頃の活躍ぶりは知っていたが、今夜も、羽田経由の深夜便でベトナムに向かい、現地法律事務所



第2回徳島支部総会にて 筆者：左

所開設のセレモニーに出席するとか、土佐校卒業時には、海外との関係など思いもよらなかったのであるが、グローバル化している現実を思う。関東支部副幹事長の澤田君(53T)とは、ほとんど初対面の気分であるが、同じ土佐高の匂いがして安心する。味の素スタジアム勤務で、ほとんどの大型イベントをロジとしてではあるが、見聞きしているのがうらやましい。というように、53回生4人が同じテーブルにつく。

岡松教頭先生(51回生)のご挨拶に、土佐校は今、国際交流に力を入れているということで、HPをみるとその内容が掲載されている。5つの国立大学の国際課を渡り歩いているが、土佐校ほど教職員・生徒の国際化に予算を投じているところはなく、グローバルな視点も兼ね備えた考え行動ができる土佐校生が育ってくれることを期待するところ大である。

32名の土佐校生が集い、最後には校歌向陽の空を歌い総会は盛会のうちにお開きとなったのであるが、徳島支部顧問の植田先輩(52回生)のご案内での2次会、徳島支部長の吉岡先輩(50回生)のご案内で3次会と大盛り上がり。個人的には小学校の同級生の旦那が上田先輩(48回生)だということが3次会で判明してびっくりという、サプライズもありの総会であった。

母校／同窓会本部／各支部

土佐中学・高等学校 事務	千頭裕	〒780-8014	高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394	(FAX) 088-833-7373	(E-mail) tosa@tosa.ed.jp	(HP) http://www.tosa.ed.jp/index.html
土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事	千頭裕	〒780-8014	高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394	(FAX) 088-833-7373	(E-mail) tosa@tosa.ed.jp	(HP) http://www.tosaobog.com/
同窓会北海道支部 事務局長	山本隆昭	〒001-0018	札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL) 011-756-2817	(FAX) 011-756-2817	(E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp	
同窓会関東支部 事務局長	二宮潔	〒100-8222	東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング森・濱田松本法律事務所 弁護士市川直介 気付
(TEL) 03-5223-7719	(FAX) 03-5223-7619	(E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com	(HP) http://www.tosako-kanto.org/
(E-mail) kininomiya@ykh.chiyoda.co.jp / ninomiya@iris.ocn.ne.jp			
同窓会東海支部 事務局長	瀬沼憲司	〒455-0064	名古屋市中区本宮町6-7-5 フォレスト本宮201
(TEL) 052-837-5834	(FAX) ナシ	(E-mail) knzss@kza.biglobe.ne.jp	(HP) http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/
同窓会関西支部 事務局長	藤原由規	〒541-0046	大阪市中央区平野町1丁目7番1号 堺筋高橋ビル6F 税理士法人アクセス 気付
(TEL) 080-9166-2400	(FAX) 06-6110-5419	(E-mail) y-fujiwara@act-cess.jp	
同窓会広島支部 事務局長	大谷準一	〒734-0007	広島県広島市南区皆実町6-3-26-902
(TEL) 082-253-5759	(FAX) 082-254-7523	(E-mail) spat56z9@vesta.ocn.ne.jp	(HP) http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/
同窓会香川支部 事務局長	野村喜久	(担当=福原俊介)	〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL) 090-7780-3722	(FAX) ナシ	(E-mail) fukuhara14443@yonden.co.jp	
同窓会徳島支部 事務局長	菊池 義倫	(担当=中越健士郎)	〒770-0841 徳島市八百屋町3丁目10-2 四国銀行徳島営業部
(TEL) 088-622-4141	(FAX) 088-623-6676	(E-mail) nk082147@icloud.com	